

第4章 環境影響要因・環境影響調査項目、調査・予測手法および評価方法

4.1 環境影響要因・環境影響調査項目

4.1.1 環境影響要因

環境影響要因は、対象事業における火葬場設備計画の内容などの事業特性と選定用地の地域特性を考慮して表4.1.1に示す事項を抽出した。

表4.1.1 本事業の実施に伴う環境影響要因

区 分	環境影響要因の選定理由
煙突排ガスの排出	施設の稼働に伴い、排気筒から大気汚染物質および悪臭物質が排出される。
施設の稼働	施設の稼働に伴い、火葬炉、排風機等から騒音、振動、低周波音が発生する。
施設の存在	施設の供用に伴い、周辺の景観に影響を及ぼすおそれがある。
施設の建設	施設の建設工事に伴い、建設機械の稼働に伴う騒音、振動が発生する。
車両の走行	施設の建設時及び供用後において、工事用車両、会葬車両の走行に伴って騒音、振動が発生する。

4.1.2 環境影響調査項目

環境影響調査項目は、環境影響要因と事業特性および地域特性を勘案して設定し表4.1.2に示すとおりである。また、選定理由は表4.1.3に示すとおりである。

表 4.1.2 環境影響要因と環境影響調査項目

影響調査項目 \ 環境影響要因		煙突排ガスの排出	施設の稼働	施設の存在	車両の走行	施設の建設
大気質	二酸化硫黄 (SO ₂)	○				
	二酸化窒素 (NO ₂)	○			○	
	浮遊粒子状物質 (SPM)	○			○	
	ダイオキシン類	○				
悪臭	臭気指数・特定悪臭物質濃度	○				
騒音	騒音レベル		○		○	○
振動	振動レベル		○		○	○
低周波音	低周波音圧レベル		○			
景観	都市景観			○		

表 4.1.3 環境影響調査項目選定理由

環境影響調査項目	環境影響要因	選定する理由
大気質	煙突排ガスの排出	施設の供用時には、施設の稼働に伴い二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質およびダイオキシン類の大気汚染物質が発生するため選定する。
	車両の走行	施設の建設時には建設車両の走行により、また施設の供用時には会葬車両の走行により、二酸化窒素および浮遊粒子状物質の大気汚染物質が発生するため選定する。
悪臭	煙突排ガスの排出	施設の供用時には、施設の稼働に伴い悪臭物質が発生するため選定する。
騒音	施設の稼働	施設の供用時には、施設の稼働に伴い騒音が発生するため選定する。
	車両の走行	施設の建設時には建設車両の走行により、また施設の供用時には会葬車両の走行により騒音が発生するため選定する。
	施設の建設	施設の建設時には、建設車両の稼働により騒音が発生するため選定する。
振動	施設の稼働	施設の供用時には、施設の稼働に伴い振動が発生するため選定する。
	車両の走行	施設の建設時には建設車両の走行により、また施設の供用時には会葬車両の走行により振動が発生するため選定する。
	施設の建設	施設の建設時には、建設車両の稼働により振動が発生するため選定する。
低周波音	施設の稼働	施設の供用時には施設の稼働に伴い低周波音が発生するため選定する。
景観	施設が存在	対象実施区域周辺は山林が広がっており、施設が新たに存在することによる景観（眺望）の変化が考えられるため選定する。

4.2 調査・予測手法および評価方法

4.2.1 現況調査

対象事業に係る現況調査の手法は、選定した環境影響調査項目（景観を除く）に関して、既存資料を整理することにより把握した。景観については、対象事業実施区域周辺において代表と考えられるビューポイント3地点を設定し、現況写真撮影により把握した。

4.2.2 予測手法

本事業にかかる予測手法は、表4.2.1に示すとおりである。

表4.2.1 予測手法

予測項目		予測事項	予測方法	予測地域	予測時期
大気質	施設排ガスの排出	二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、ダイオキシン類濃度	大気拡散モデルを用いた数値計算	事業計画地周辺において煙突排ガスの排出による影響が考えられる地域	施設供用時において影響が最大となる時期
	車両の走行	二酸化窒素 浮遊粒子状物質	大気拡散モデルを用いた数値計算	事業計画地周辺における代表的な地点1箇所	建設工事の最盛期および施設供用時において影響が最大となる時期
悪臭	施設排ガスの排出	臭気指数 特定悪臭物質濃度	大気拡散モデルを用いた数値計算	事業計画地周辺において煙突排ガスの排出による影響が考えられる地域	施設供用時において影響が最大となる時期
騒音	施設の稼働	騒音レベル	伝搬理論計算式を用いた数値計算	事業計画地周辺において施設の稼働が考えられる地域	施設供用時において影響が最大となる時期
	施設の建設 車両の走行	騒音レベル	伝搬理論計算式を用いた数値計算	事業計画地周辺における代表的な地点1箇所	建設工事の最盛期および施設供用時において影響が最大となる時期
振動	施設の稼働	振動レベル	伝搬理論計算式を用いた数値計算	事業計画地周辺において施設の稼働の影響が考えられる地域	施設供用時において影響が最大となる時期
	施設の建設 車両の走行	振動レベル	伝搬理論計算式を用いた数値計算	事業計画地周辺における代表的な地点1箇所	建設工事の最盛期および施設供用時において影響が最大となる時期
低周波音	施設の稼働	低周波音圧レベル	伝搬理論計算式を用いた数値計算	事業計画地周辺において施設の稼働の影響が考えられる地域	施設供用時において影響が最大となる時期
景観	施設の使用	代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度	現況の眺望および事業計画を元にした定性的な予測	事業計画地周辺 (代表的な眺望地点3点)	施設供用時

4.2.3 評価方法

評価は、予測項目ごとに、「大阪府環境影響評価条例」（平成10年3月、大阪府条例第3号）等をもとにあらかじめ設定した環境保全目標を満足するか否かによって行う。